



## 【神があなたに求めておられる事】

聖書:ミカ書6章6節—8節/暗唱聖句:ローマ人への手紙12章1—2節 説教者:鄭南哲牧師  
(Rev.Jung nam-chul)

今日のメッセージは旧約のミカという預言者と彼が宣べ伝えたメッセージが何であるのかを考えてみる事です。それによってミカ書による神様からのメッセージをもう一度確認する事が出来るでしょう。まずミカ書についてしばらく考えて見たいと思います。

## &lt;1. 預言者ミカはどんな預言者だったのでしょうか。&gt;

‘ミカ’という名前の意味は‘主のような者はだれなのか。’という意味ですが、彼はイザヤと同じ時代に働きました。つまり、紀元前7世紀の預言者でした。預言者たちには預言をする特定対象がありました。ある預言者は南王国であるユダに向かって、ある預言者は北イスラエルに向かって、例え、旧約の預言者の中ヨナ(アッシリアのニネベ)やオバデヤ(エドム)のような場合はイスラエル以外他の国にも向かって預言をしたこともあります。

しかし、聖書に出てくる多数の預言者たちはユダに向かったの預言が多かったです。たとえば、イザヤ、エレミヤ、ヨエル、ハガイ、ゼカリヤ、マラキなどがその預言者らです。北イスラエルに向かった預言した預言者としてはホセアとアモスです。今日の預言者のミカはどっちに向かったの預言者だったのでしょうか。ミカは南ユダと北イスラエル両国へ預言した預言者でした。北イスラエルに対する預言は比較的少なく、おもに南ユダのイスラエルの民たちへの預言が多くありました。

預言者ミカは罪を告発し、神様のさばきを宣言しますが、後半は輝かしい希望を述べています。そして預言者ミカはやがて来られるイエスキリストの誕生について大切な預言をしています。創世記49章10節は、メシアなるイエスキリストがユダの部族から来られる事を預言し、第二サムエル7章26節ではメシアなるイエスがダビデの子孫として来られることを預言、ダニエル書9章25節ではメシアの誕生時期を預言しましたが、ミカ5章2節では具体的にイエスキリストの誕生先がベツレヘムであることが預言されました。この預言はヘロデ王がいったいキリストが生まれる所はどこなのか聞いたとき答える根拠になる聖句でもあります(マタイ2章3—6節)。

## &lt;2. ミカ預言者の時代の状況&gt;

今日の本文には一つの質問が出ています。6節「私は何をもって主の前に進み行き、いと高き神の前にひれ伏そうか。」この質問は要するに神様に喜ばされる礼拝は何で、ふさわしい礼拝者なのかという質問です。そして、神様が望んでおられ喜ばされることをいくつか教えて下さっています。

神様は一歳の子牛のいけにえを喜ぶのか。当時、ミカ預言者の時代に一歳の子牛は生まれたばかりの子牛より高い、とても立派ないけにえとして扱われていました。それとも、神様は全焼のいけにえを喜ばれるでしょうか。全焼のいけにえとは完全な献身を象徴していましたが、文字通り、火で焼いてささげるいけにえでした。そうでなければ、幾千の雄羊や幾万の油を喜ばれるでしょうか。当時神様にいけにえを捧げる時、牛は質で価値が決まりましたが、羊は量によって価値が決まったそうです。たとえば、聖書の記録上、幾千の動物をいけにえとしてささげた人は体表的な人物がいました。イスラエルのソロモン王だけでした(第一列王記8:63)。ソロモン王が神の宮を建てた後、ささげたいけにえがあまりにも多かった事が聖書を通して分かる事ができます。何と牛が二万二千頭、羊がおよそ十二万でした。神様はこれほどたくさんのいけにえを喜ばれるでしょうか。もしくは動物で満足できず、もしも、神様は自分の産んだ子をささげるなんて喜ばれるでしょうか。神様が創造された人をいけにえとしてささげる事はレビ記や申命記によると、明らかに禁じられた事です(レビ記18章21,22)。しかし、当時カナンでは偶像崇拜の中で実際にこのように自分の産んだ子どもをいけにえとしてささげるモレックという偶像崇拜の宗教がいたわけでした。神様はこれらを決して喜ばれないと言われました。

神様の喜ばれる事は他にあることをミカ預言者は大事に教えて下さっています！それについて答えて下さっていたのが今日の本文の8節です。「主はあなたに告げられた。人よ。何が良い事なのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともに歩む事ではないか。」

神様が喜ばれる礼拝、神の御前でふさわしい礼拝者の姿は礼拝の形とか、儀式ではなく、我々の生き方によって神様を愛し、へりくだって神様の御心に従って行うことだと言っておられるのです。つまり、愛のない礼拝、そして、献身のないいけにえを喜ばれないと言われました。

## &lt;3. 神様が求めておられ、喜ばれる真の礼拝と礼拝者の姿&gt;

愛するクリスマンプレイズチャーチのみなさん！神様が願っておられる事は儀式や形ではなく、我々の生き方でささげる礼拝です。神様の前での‘良い事’とは神様が喜ばれる事と言う意味です。それでは、神様が求めておられ、喜ばれる真の礼拝と礼拝者の姿、その3つの具体的なことは何だったのでしょうか。

## ① 神の前で徹底的に公義を行う事です！

預言者ミカが働いていた時はイスラエルのヨタム(739-731BC)、アハズ(731-715BC)、ヒゼキヤ(715-686BC)王の時代でしたが、ミカは当時社会で神を信じている民たちの深刻な不義と不正を見ていました。強者(きょうしゃ)によって行われる弱者(じゃくしゃ)に対する不正と不義、抑圧(よくあつ)、搾取(さくしゅ)、虐待(ごうたい)がひどい時代でした(2:1,3:2,3,8,7:2)。聖殿の中神の前では敬虔な姿で礼拝を捧げながらも、社会では、弱いものを虐待し(3:3)、人を欺き、女たちと子どもたちに暴力したり、家から追い出したり(2:8-9)、升目(ますめ)不足で人をごまかし、枳(ます)を不正ではかり(6:10)、自分の利益の為なら、あらゆるいつわりを行っていました！

それだけではなく、当時、ヨタム王は預言者ミカによりユダの神の前で悔い改めなければ、破滅と神の厳しいさばきについて聞いたのにもかかわらず、偶像を拜んでいた高きところを取り除かず続けて、金を儲けるために、いつわりの預言者たちは、やがて平和が訪れるという偽りの預言や教えばかりをしていたことが分かります。ミカ書3章11節、「そのかしらたちはわいろを取ってさばき、その祭司たちは代金を取って教え、その預言者たちは金をとって占いをする。しかもなお、彼らは主に寄りかかって、「主は私たちの中におられるではないか。わざわざは私たちの上にかかって来ない。」と言う」といつわりの預言をするばかりでした。

神を信じていたイスラエルの民地たちは、社会で神を信じてない者たちと何の区別もなく、違いもなく生きているのに、神の前に出て礼拝を捧げる時に、高価な一歳の子牛をささげるなんて何の意味があるだろうかとミカ預言者は指摘してました。神を信じ礼拝は捧げていても、実は、お金を本当の神のように、日常の生活の中では、マンモン(物質)の神を拜んで捕らわれてしまいイスラエル民たちの生き方は、結局さらに浸透され深刻な信仰の墮落に陥っていても鈍感で気づかない状態であったことが分かります。

このような不正と宗教的腐敗と墮落など真ん中で、神様はミカ預言者をとおして、神様が望まれる、喜ばれ礼拝を捧げられるためには、信じる人の社会でのいつも神の前で、神の公義を愛し、キリスト者らしく正しい生き方をまず、することを強調して下さっています。神様が喜ばれる礼拝は、不正で、人をごまかして稼いでいくら多くの献金やいけにえを捧げるのではなく、主の公義を守り行いながら、もし、その結果、捧げる者が少なくても、時には損になったとしても、その信仰の生き方と心を持って捧げる時、主はその捧げ物と礼拝を喜んで受け取って下さることであります！

私たちが礼拝の時だけではなく、一週間この社会の中であっても、主の前で恥ずかしいことがないように、不正と妥協することなく、正しく生きなければなりません。曲がった時代、礼拝の瞬間だけではなく、変わらない神の御言葉の真理に基づき、神様が喜ばれる生き方こそ、真の神の信じ、礼拝する者のふさわしい姿勢であることを忘れないようにしましょう。キリスト教は儀式の宗教ではなく、生き方そのものであり、それが生きた信仰です！偽りと不義と妥協せず、神の公義に従って働き、信仰の良心を守りながらのこの社会で生きる塩と光の存在たちとなりますように主イエスキリストの御名によって祈ります！

「この世と調子を合わせたいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。(ローマ12:2)」

礼拝の時の礼拝者のふさわしい献身とは、ここで、二つの教えがあります。一つ目は、この世と調子を合わせないこと(世の価値観)。二つ目は、神の御心が何なのかを知ること(神の価値観=聖書の価値観:価値観?人生の中でもっとも大切だと思っていること)でしょう。

この世と調子を合わせないことに分かりやすく言うと、この世の人々の価値観に生きるのではなく、神の価値観すなわち、徹底的に聖書の価値観に従って生きるということを教えて下さっています。クリスチャンとして、救われた人だから、神にゆだね切った人生だから、神の御心は何なのか、つまり神が喜ばれることがなんなのかをよく考える、その神の価値観(=聖書の価値観)で生きることこそ、神の前での礼拝する人の捧げるべき神様が喜ばれる大切な献身あることを教えて下さっています。

今日も礼拝を通して、今週一週間、この社会で、この世の中で、真の神のみを信じ、礼拝する者として、神の御心が何かを見分けることそして神が喜ばれることがなんなのかをよく考えることが大切だと教えて下さっています。それこそ、結局、今自分に与えられている神の目的、神からの使命に従って自分を変えていく、本当の自分らしく生きるが出来、同時に神に喜ばれる礼拝を捧げることが出来ることをローマ人への手紙12章1-2節は教えて下さっているのです。

人間は環境の影響を受けるものではないでしょうか。会社だったら、会社の人々の影響を受け、近所の付き合いしている人に、今のコロナの時代には様々なユースやマスコミに影響を受けている中でみなさんご自分はどうのように生きているのでしょうか。この世の人々から影響を受けて、振り回されて生きていないでしょうか。それとも、良い影響を与える方になっているのでしょうか。自分の生活の中で、神のみこころをしっかりと見分けて、その神のみこころに従っていく。それをひと言で言うと自分の人生観を変えるということであり、それが神に礼拝を捧げる時に一番大切な献身ということではありませんか。

ローマ人への手紙12章1節で、パウロは礼拝についてこう勧めて下さっています。

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。(ローマ12:1)」  
(献身は、自分の人生をささげることでしょう。しかし、この献身という言葉の意味を誤解している人が多いのではと思います。献身というのは、何かのルールにしばられるとか、神学校や修道院に行くとか、財産を処分することでは決してありません！

「ささげる」を別の言葉にすると、委ねることです！

ある人は、神に自分をささげたら、自分という存在はなくなるのではないか、自分の存在が否定されるのではないかというイメージがあるかも知れません。

そして、「ささげる」を別の言葉にすると、神の目的に生きる。献身ということばを他の言葉で言うと、ある意味では、神の目的に生きるというように言葉を換えて説明できる事ができると思います。みなさん一人一人の人生には、神が持っておられる必ず目的があり、計画があります！自分に対する神の目的があり、それを成し遂げていくのが献身の歩みであるわけです。何でも作られた目的があるでしょう。このペンも書くために作られ、ピアノも美しい音楽を奏でるために作られ、プロジェクターも情報を映し出すために作られたのです。それならば、みなさんも神のかたちとして造られたみなさん一人一人対しもっと尊い目的があるのではないのでしょうか。礼拝の時、生きた備え者として自分を捧げる献身を通して、その神の目的通りに生きるという決心と歩みが神様の喜ばれる礼拝と礼拝者であることを今日も忘れないで下さい！礼拝を通して、自分を神に委ね、神の目的通り生きる決心！それを神は一番望んでおられ、喜ばれる生きた礼拝であると信じます！その礼拝での献身を通して、我らはこの社会の中で、神の信じる者としてふさわしく、正しく区別された神の公義に生きる生き方で生ける力となることを共に覚えて頂きたいと思います。

ですから、今週一週間社会で、この世の中での勝負は礼拝の時に、生きておられる神の御前で、みなさんの捧げられるかどうかにかかっていることを忘れず、礼拝でのみんな献身者と勝利者となれますように切にお祈り申し上げます！アーメン！

神様が求めておられ、喜ばれる真の礼拝と礼拝者の姿、その二つ目は、具体的に何だったのでしょうか。

② 二つ目、誠実を愛する事です。(最後まで愛の仕えと実践)

ここで「誠実」とはヘブル語で「ヘッセード」と言う言葉です。このヘッセードという言葉の意味は、「愛、柔和、慈愛、親切」などに訳すことができます。つまり、「尽きない愛」という意味です。ですから神様が望んでおられることは落胆しないで、最後まで愛を施し、親切に仕える礼拝者の姿勢を望んでおられるという意味です。これが誠実を愛する事の意味です。愛と配慮、弱者に対する関心、これが神様を信じ礼拝する者たちが持つべき社会で、教会での行い、実践だと教えて下さっています。どの社会にも、共同体にも弱者がいるのは当然ですが、真の神を信じ、礼拝を捧げる者の義務は弱者をかえりみることです。愛の仕えと実践こそ、神様を愛する具体的信仰のあらわしであり、真の敬虔なのです。

キリスト教の初期、キリスト教を激しく批判し、攻撃と敵対していたルシアンという人がいましたが、彼でさえ、クリスチャンたちに対してこのような記録を残しています。

“彼らは血肉ではなかったが、兄弟であって、互いに愛し合うようにと教えた。その兄弟たちに助けが必要な時はためらわずに、助けの手を伸ばし、惜しまずに愛を示していた。”と書かれています。そして3世紀以前の聖職者たちの文書によく出た言葉は“すべての物について自分の物だと言うな！・愛の分かち合うところに主がおられる！”だったそうです。

これをまとめて見ると、初期クリスチャンたちは貧しくても、こまった隣人を救済し、病んで、苦しんでいる人々に愛と慈愛を施し、牢屋に入っていた人々をかえりみていたということは、神の愛と救いに対する感謝と恵みの表しとして、愛の分かち合うところに神は共におられる、それこそ、神を信じる者が行うべき礼拝であり、主が喜ばれることであると信じていました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！もちろん、今はコロナウイルスの事で、ご自身の家族だけでも背いっぴいかも知れません。しかし、今の時代こそ、とても孤立しやすくなり、一人で最後の孤独死、孤独な暮らしをしながら、周りとは断絶されているのがどれほど当たり前になっているのでしょうか。

我々は回りに自分の助けを必要としている人は必ずいます。我らがもっと関心と愛を持って周りを見れば、いつも愛の関心を持ってかえりみつつ、仕えていくべき対象が必ずいることに気づかされると信じます。「愛の分かち合うところに主はそこにおられる！」その言葉を一週間、これからも是非覚えて行きましょう。一度施す程度ではなく、最後まで愛の施して、配慮して仕える生き方を通して、神の御名があがめられるように、神様がともにおられ、喜んで受け取って下さる礼拝者の実践と生き方であることを覚えておきましょう。

神様が求めておられ、喜ばれる真の礼拝と礼拝者の姿、その三つ目は、具体的に何だったのでしょうか。

③ 三つ目に、日々神とともに歩む事です。

神様との歩む！共に同行(どうこう)する！これは神が喜ばれる礼拝者の一番美しい生き方であることを聖書は教えて下さっています。神様との同行を言う時一番のロールモデルは旧約聖書の「エノク」という信仰の人物を出す事が出来ます。

創世記5章21～22節によるとエノクについての説明はたった三つだけでした。

しかし神様の前ではもっとも祝福されずばらしい生き方であったことを明かして下さっています。

「エノクは65年生きて、メシエラを生んだ。エノクはメシエラを生んで後、300年、神とともに歩んだ。そして、息子、娘たちを生んだ。エノクの一生は365年であった。」

真の礼拝は、主日教会だけではなく、日々主と共に親しく交わりつつ主と共に歩む事こそ、神が真に望んでおられ礼拝の姿！であることをミカ預言者は教えて下さっています。

エノクは一生神様とともに歩む生き方を大切にして生きていた人だったのに違いありません。

創世記5章24節でもエノクについて語るとき、神とともに歩んだことを強調しています。

「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」エノクの一生が大切な意味を持っているのは彼が神とともに歩んだということです。新約聖書の中へブル人への手紙の著者(ちょしゃ)はエノクの生涯についてこう証言して下さいます。へブル人への手紙11章5節です。「信仰によって、エノクは死を見る事のないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれている事が、あかしされていました。」

エノクは礼拝する場所だけではなく、日々主と共に交わりつつ、主と共に歩まれ、神はそれが喜ばれ、受けられた本当の礼拝であり、礼拝者の姿！であることを教えられています。

#### <まとめ>

ユダヤ人たちは律法を暗記し、その暗記したことを自慢していました。彼らは旧約に248個の命令があることを見つけ出しました。これを律法の条文(じょうぶん)のように暗記していました。おそらく彼らはこれらのことを守ろうとし、一生懸命に努力はしたと思いますが、神様に対する心からの愛と真実がないままだったと思います。そうしながら自分たちだけが義なる者の様に歩き回ったのです。それがパリサイ的高慢でした。そういうわけでイエス様は外側だけが美しく見えても内側は偽善と不法でいっぱいだと叱られたのです(マタイ23:27)。

#### 愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

みなさんは、今年、最近、先週はだれと歩んで来ていらっしゃるでしょうか。一人で歩んでいらっしゃる方はいませんか。

主日家での礼拝の時、教会での礼拝の時だけが、神に礼拝する時だと思い込んでいませんか。

礼拝は日々主と共に歩むことです！礼拝の時どんな捧げものよりも、みなさん自身を神に委ね切る心、献身することを求めておられます。日々神の愛を分かち合い、神が喜ばれる生き方をすることが真の神を信じ、神の愛を受けた礼拝者としての姿勢であり、行うべきであると教えて下さいました。我々が神様に何かをささげるものより、大切なのは神様のための我々の献身した公義を守り、愛の分かち合う生き方そのものなのです。ミカ預言者を通して下さったメッセージは今日生きている我らにも同じく適用できるでしょう。

我々に大切なのは内側の心です。そして日常の生き方です。神様は今もみなさんの内側の心を見抜いておられます。だれと人生の道のりを歩んでいるのか神様はすべてをご覧になり、すべてをご存知です。神様は我々に‘良い事、神様が喜ばれる真の礼拝と礼拝者の姿’を教えられました。人をだまし、だまされやすいこの社会の中で、日々が神の公義を行い、イエスキリストを愛し、その愛を喜んで周り人々に分かち合い、神様とともに歩むすばらしい生き方となりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。願わくは、今週一週間も公義を行い、愛を分かち合いながら、神とともに歩む、神にいつも喜ばれる礼拝者たちとなる全クリスチャンプレイズの信仰の家族となりますように、神の祝福をお祈り申し上げます！アーメン！！



Christian Praise Church